

---

# 恋人GET作戦

クノウ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

恋人GET作戦

### 【Nコード】

N1428A

### 【作者名】

クノウ

### 【あらすじ】

ノリの恋人GET大作戦物語。

(前書き)

< font size = 1 > まず、シ = シュウジ。ア = アツシ。タ  
= タケとなっています。そののとおりよろしく。 < / font >

突然ではありますが

「彼女が欲しい!!」

「……………」x3

「僕も彼女が欲しい!!」

シウウジ「何だよ突然。」

アツシ「そうだぜ、ノリちゃん。ビックリするじゃないか。」

タケ「ああ、どうしたんだ？」

今現在、ここにはいつもの四人組がいる。

「だって可笑しいじゃないか!!」

そう、少し前。具体的にいうと一ヶ月程前とは、明らかに違う光景がここにはある

タ「なんかおかしいか？アツシ。」

ア「いや、別にいつもと変わりないと思うけど…。」

タ「だよなあ？」

「ううう……………」(涙)

ア「おい、何泣いてんだよノリちゃん。」

タ「目にゴミでも入ったか？」

シ「目薬貸すか？」

「ちっがー！うー！ みんな、この状態を見て何か感じないの？」

ア「さあ？」

タ「ふむ……。」

シ「普通だよな。」

「普通じゃないから言ってるんじゃないか……！」

ア「だから何がだよ。」

今は昼休みである。

シユウジたちは屋上に集まってお昼を食べている。

だが……

シユウジはちせの作った弁当を

タケはユカリの弁当を

アツシは……… 必死に頼み込んで作ってもらったアケミの弁当を

そしてノリはというと

購買のパン。

しかも授業が若干長引き出遅れた為に、残り物の人気のないパンを食べているのである。

「何で僕だけ購買の、しかも売れ残りの揚げパンなんだよ……（泣）」

「

ア「なんだ、弁当が食いたいのか？」

シ「それなら親に作ってもらえばいいじゃないか。」  
タ「ノリちゃんのお母さんって、確か元栄養士で料理が美味いんじゃないかってっけ？」

「ちつがー！ーうー！！ 僕が欲しいのは親が作った弁当じゃなくて“か・の・じょ”が作ってくれた弁当なの！！」

こつも怒鳴られると流石に喧しいぞ

「タケは昨年からユカリちゃんと良い感じだったからだったから分かるよ。でも、何で女に興味のなさそうだったシユウジが！？ しかも何時の間にかアツシまで！！？ この裏切り者ども~~~~~」

パクパク…

モグモグ…

ムシヤムシヤ…

ア「おつ、シユウジその唐揚げ美味そうだな？」

シ「ああ、なかなか美味いぞ。」

ア「じゃあ、肉団子と一つ交換してくれ。」

タ「あつ、じゃあ俺は煮物分けてやるよ。」

「あんたら僕のこととは無視ですか！！？」

「「「あつ、話終わった？」「」」

「……………(涙)」

各自弁当を食い終わり（しかたなく？）話を聞くことにした

タ「でも、『彼女が欲しい』って言われてもな〜。」

ア「ああ、こればかりは相手側の気持ちの問題もあるし。」

シ「とりあえず、気になる女子にでも声をかけてみればいいだろ？」

三者三様のまともな意見である

「それが自然に出来れば、苦労しないよ！！だからこそ、みんなにその手伝いを頼んでるんじゃないか！！」

シ「じゃあ、俺たちはどうすればいいんだ？」

「ああ。それで、ものは相談んだけど……。」

## 第一作戦 白馬の王子様作戦

ア「……俺、帰っていいかな？」

タ「我慢しろよ、アツシ。俺だつて帰りたい……」

シ「なんなんだよ？このネーミングセンス……」

「五月蠅い！！そんなの僕の知ったことか！！！！作者にでも言え！！」

（悪いけど、三人ともこの哀れなノリ君に付き合っただけでくれ……）

ア「仕方ない、作者にこう言われちゃな。」

シ「ああ、SS世界の住人にとって作者は“神”も同然だし。」

タ「下手なこと言ったら出番減らされるし。」

「みんな、何話してるんだ？」

「『『何でもないぞ!!』(ニツコリと偽善チックに)『『『

ここで作戦の説明

? 町でシユウジとタケが女の子を少々強引にナンパする。

? 当然女の子は嫌がる

? そこへ白馬の王子? 様ことノリが現れ二人を撃退。

? 二人を撃退したノリを、女の子は好きになりHAPPY END

「どうだ、すばらしい作戦だろう?」

ア「(だめだろうな...)」

タ「(ああ、120%無理だろ。)」

シ「(何で俺がナンパしなくちゃいけないんだ? そっつうのしたこ  
とないぞ。)」

話が進まないので以下省略

駅前にて

ア「で?」

タ「札幌まで来る必要あったのか?」

シ「早く帰りたいんだけど...。」「

「まあ、いいじゃないか!! これも仕方のないことなんだから。」

「『『お前のせいだろ!! お前の!!!!』』』」

というわけで作戦開始

「お!?! あの子なかなか可愛いな。 タケちゃん、シユウジ、頼む。」

「…了解」

タ「ねえねえ、君可愛いねえ？ちよつと僕とお話しない？」

シ「そ、そう。少しだけでも……。ねっ？」

タケはこういうことに慣れているのかいかにもといった口調で。

もちろんシユウジはまったく初心者のためしどろもどろに。(おまけに愛想笑いまで)

女の子「え？えっ？」

女の子は突然声をかけられて戸惑っているようだった

タ「あつ、その喫茶店でお茶でもしようよ。奢るからさ。」

シ「そ、そうだよ…、行こう…ぜ。(汗)」

女の子「あ、その…」

その頃

「イヨツシャ！いい調子だよ二人とも。ここで僕が出て行けば」

ア「ああ、シユウジは困ってるみたいだけど、さすがにタケは慣れたるみたいだな。」

「どうかな？アツシ。」

ア「ああ、もう少ししたら合図するから。」

「うん、頼むよ。」

話は戻って

タ「ほら、早く行こう…ん？」

女の子「ポ~~~~ッ(赤)」

シ「ど、どうしたのかな？」

シユウジが何気なく声をかけると…

女の子「はっ!? な、何でもありません!」

ア「よし、いまだノリちゃん!」

「よっしやー!! 逝くぞ。」

ア「なんかニユアンスが変だったが、後は上手くいくことを祈って……ん? なんか……どうも雰囲気……(汗)」

そう。明らかにちよつと雰囲気を変だった。

具体的にいうと、『私、恋しちゃってます』てな雰囲気　と  
いうか、もうそのままだ。

シ「大丈夫……かな?」

女の子「(はっ!?) だ、大丈夫です! あ、あそこの喫茶店ですよ  
ね? さ、早く行きましょう!」

シ「え? あっ!」

女の子がシュウジの腕にしがみついたその時

「そこのお前ら〜! 何やってんだ。嫌がる女の子を無理やりつれて  
いこうなんて男のする事じゃないぞ。さっさとその手を離せ!」  
叫びながらシュウジに近づくノリ。だが、その手がシュウジの肩を  
つかんだとたん

「何ですかあなたは? や、やめて下さい!」

「……えっ!」と男三人が。

女の子「せっかく“運命の男性”に出会えたんです。邪魔しないで  
ください!」

誰にも予測できない展開だった

真っ白になっていくノリ……

「(哀れだ……………)」×3

第一作戦は失敗に終わった

第二作戦 無難にナンパ

シ「最初からこうしろよ……………」

「ん？何か言った？」

シ「いや、何も。」

ア「それよりも、行くんなら一人でさっさと行ってこいよ。」

タ「そうそう。俺だって早く帰りたいからさ。」

「君たち、一緒に来てくれないのかい？(涙)」

話が進まないのでまたまた以下省略

ア「……………おい。」

タ「……………俺たち、」

シ「……………もう帰るから。」

「何故だ〜〜！！！！！！？」

現在の成果

シュウジ 5勝

アツシ 4勝

タケ 5勝

そしてノリ

10連敗中

何がと言うと、もちろん女の子に声をかけて、まあ概ね良好？な返事が返ってきた人数のことだ。

まあ、良好と言っても一部には先ほどの女の子のようになってしまった娘もいたのだが、ここではあえて触れないでおこう

「何で僕だけ女の子が避けてくんだよ！！」

ア「何でといわれても……」

シ「まあ……」

タ「あれだな……」

シウウジはちょっとはカッコイイ部類に入る。

タケは女の子の誉め方（扱い方？）が上手い。

アツシは…まあ、そこそこだとして置こう。

問題は……言うまでも無くこの男の行動にある。

とてもではないが、ナンパをしに来た男の取る行動ではない。

声をかけた女の子どころか、周りの通りすがりの人まで引いてしまっていた。

それは××××をして、さらに××××をしてしまうと、何とも形容しがたい行動をとっていたのだ。

その光景には、さすがの親友？三人も赤の他人の振りをしていた

「何故だ〜〜!?!?!」

「はあ〜」x3

ア「なあノリちゃん、自分の格好に気がつかないのか？」

タ「ついでに言えば、自分が何してたかも。」

「へ？」

シ「……………気づいてないのか。」

三人は視線を下に下げる……………

ノリも下げて見る……………

「……………。」x3

「……………。」

「……………。」x3

「何じゃこりや〜〜!?!?!」

いや、あるんですね……………

社会の窓『全開!?!』

おまけに飛び出してます(何が?)

ア「大体、ナンパしてるのに『結婚を前提にお付き合いを……………』とか、

「……………。」

タ「『一緒に夜明けのコーヒーを……………』とか、」

シ「喫茶店とかならまだしも『そのホテルにでも……………』とか言うなんて……………」

「お前、馬鹿だろ？」x3

なんとも、一昔前の決め台詞でナンパをしていたのだった

そりゃあ、初めて会った人　しかも社会の窓全開、おまけに?

が飛び出してる人からプロポーズまがいの如く話しかけられれば誰

でも引くのは当然。

さらに言えば、尽く避けられることに焦りを感じ、しつこく 必  
死の形相で 形振り構わず 声をかけまくっていた。そのせい  
もあるだろう。

「何故だ〜〜!!」

ともかく、こうして第二作戦も失敗に終わった。

### 第三作戦 告白

日は変わって学校にて

「よし!!告白するぞ!!」

右手でガッツポーズをしているノリ。だが、親友たちは『どうせま  
た駄目だろう…』そんなことを考えていた。

ア「で、具体的にはどうするんだ?」

「それなんだけどね……。」

そして放課後

シ「……本当に来るのか?」

ア「さあ?」

タ「どっちにしても面白そうだ。」

ここは屋上。俗に言う告白スポット?である

もちろん三人は、ノリの告白を見届けるために物陰に隠れている。

ここまでの状況を説明しよう

まず、ノリから以前より気になっていた女子の名を聞きだすと、タケとアツシがその娘を呼び出すために手紙を書いた。もちろん名前を書かずに。

そしてそれを相手の靴箱にシュウジが入れておくという完璧？（ノリ談）な作戦だった。

そして三人とノリは、相手を今か今かと待っている。この後に待っている悲劇も知らずに……………

なんて事はなく、それから十分ぐらいして相手 came。学年でも人気のある可愛い娘だ。

シ「（おい、あれが相手の娘か？）」

ア「（そうだぞ、シュウジ。しかしノリちゃんも思い切ったことをするねえ。）」

タ「（ああ。どっちにしる面白いことになりそうだな。）」

話は戻って…

女の子「あれ？ あの、私ここに来てくれてって手紙をもらったんだけど…」



ノリは走って行ってしまった

シ「…なあ、俺って悪くないよな？」

タ「安心しろ、シユウジ。お前は悪くない。」

ア「むしろ、ノリちゃんの『運』が悪すぎるんだ……。」

ヒュ~~~~

木枯らしが吹いた

トボトボと校門に向かって歩く一つの影。

言わずもがなノリである。

先程までの相次ぐ撃沈によるショックのあまり、もうその心は荒みきっている。

もうどうとでもなれ！！といった感じた。

「チクシヨウ…、何で僕だけ彼女が出来ないんだよ…。でも、次こそは…」

失礼。まだ諦めてはいないようだ。非常に諦めが悪いようだ、この男。

その時、ふと後ろから声が聞こえてくる。

？「お〜い、ノ〜リ〜ク〜ン。」

「ホへ？」何だ？その変な返事は…

？「ノ〜リ君。学校中探したぞ〜。」

「何だ、真澄か。で、何のようだ？」

真「『何のようだ』って、別に用がなくてもいいじゃない。」

「学校中探すほど大事な用じゃないのか？疲れるだけだろ。」

真「う。いいじゃない、別に。ね、一緒に帰ろうよ。」

「なんで？」

真「帰りたいから。それにお隣さんでしょ？いいじゃない。」

「一人で帰れよ。」

真「うっ！？こんなに可愛い子が誘ってるのに、拒否するの？」

「ああ、分かったから。」

真「うん」

こいつは何がこんなに嬉しいんだろう？ そう思うノリであった。

（そのころ屋上で）

ア「なあ、あれって…（汗）」

タ「ああ、そうだよな（汗）」

シ「誰だ？あの子。」

帰ろうとしているノリを見ていた三人は目撃をした。ノリが女の子に声をかけられているのを。しかも

ア「A組の河野真澄だよな…」

タ「ああ。ノリの知り合いだったのか…」

シ「だから誰なんだ？」

ア「シユウジ、知らないのか？男子の中でダントツに人気のある女子だぞ？あの子は…！」

シ「いや、初めて聞いた。」

タ「まあ、シユウジはそういうのに興味ないだろうからな。」

ノリが彼女の気持ちに気づくのはいつなのだろう？

そう、考えられずにはいられない三人だった。

(後書き)

< font size = 2 > 久々に書きました〜〜!!! 書き始めてから一ヶ月もかかるという、なんとも執筆速度の遅いこの作品。

まず、内容としてはアニメ版のほうを参考にしています。ユカリちゃんが出てきてるんで。

今回はおもいつきりギャグですけどどうでしょう? こんなノリ君はどうでしょう?

某ゲームのSSのように、このSSを期にノリ君が弄られキャラとして定着してくれることを……切に願います(笑)

次はおそらくシリアスものになるかと思えますんでよろしく。 </

font >

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1428a/>

---

恋人GET作戦

2010年10月11日13時36分発行